



帰国生の学校選び A to Z

●第45回●

大学入試改革によって変わる高校生活

昨年末に中央教育審議会が大学入試改革案を文部科学相に答申しました。今回は、その概要と影響についてご説明します。

まず、大学入試センター試験が廃止され、それに代わる2種類のテストが導入されます。一つは「高校基礎学力テスト(仮称)」で、2019年から実施が予定されており、高校2・3年生の希望者を対象に年に2回程度(夏～秋)に実施されます。出題教科は国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科の6教科です。もう一つは「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」で、2020年からの実施が予定されており、大学受験生を対象に年に複数回実施されます。複数の教科を組み合わせた合教科型、教科の枠を超えた総合型で出題されます。また、いずれのテストも外国語の英語はTOEFLなど外部試験を活用することが検討されています。

加えて、各大学で実施されている個別試験は、受験生の「主体性・多様性・協調性」を重視して選抜する方式に転換し、面接、小論文、集団討論を実施し、部活動や課外活動の実績なども加え、高校時代にどのような経験をしたかを重視する「多面的な判定」とするべきだとしています。また、学力テストを行う場合には記述式・論述式で出題し、客観式の問題は避けることや、大学入試センター試験に代わるテストの成績の活用も勧めています。一方、AO・推薦入試など学力を問わない入学者選考をする場合にも「高校基礎学力テスト(仮称)」の成績を活用することを求めています。

このような大学入試改革によって、大学受験対策は様変わりします。改革後の大学入試は、教科型の学力テストで高得点を上げるための学習では対応できません。また、前述した通り、大学の個別試験も「多面的な判定」となりますので、教科の枠を超えた総合的な学力、そして、論述力やプレゼンテーション能力の向上が必要ですし、高校在学中に部活動や課外活動で実績を上げることも大切です。つまり、高校生活にも変化がみられることが予想されます。

執筆者：丹羽 肇人 (名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当)

河合塾での指導経験を経て米国ではCA・NY・NJ州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー、文京学院大学女子中学校高等学校 北米事務所アドバイザー。

お問い合わせ先：E-mail nihs@ujeec.org

Phone & Fax 855-669-9300(名古屋国際)

